

【教材紹介】

「お金ってなんだろう」

—貨幣について学ぶ場をひらく—

東京学芸大学教育学部助教授 大澤 克美

1 教材の背景

IT技術の発展と結びついた経済のグローバル化は、消費生活や職業生活、そして市民生活など、我々の暮らしに大きな変化をもたらしている。その中では、電子マネーといった見えないお金が広く使われるようになり、拝金主義的な考え方や行為が目につくようになってきた。一方で、振り込み詐欺をはじめとする金融犯罪が多発し、インターネットに関する架空請求の被害も後を絶たない。

そのような社会の変化を踏まえ、子どもにお金や仕事、あるいは金融犯罪に対してどのような能力と態度を育てるのが、益々切実に問われている。ここで紹介する教材は、そうした教育課題に取り組むため本年4月から始まった「東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクト」が作成したテキストの一例である。

2 教材のねらいと構成

下記に取り上げた教材は、小学校5、6年の子どもに、先ず日頃特に考えることなく使っているお金の基本的な機能や、利便性について考えさせることを意図している。さらに、そこでの理解を生かしながら、お金がいつでもものやサービスと交換できる理由や、その自由な交換を阻害する通貨偽造という行為の意味について気づかせることをねらいとしている。

中・高の社会科及び家庭科で行う金融や家計をめぐる学習を除くと、小学校も含めた学校教育で金銭に関わる内容を取り上げる場面は極めて少ない。子どもの金銭に対する認識や意識に未熟さが指摘される現在、教科・道徳のみならず総合的な学習の時間も含め、金融のシステムや関連犯罪について学ぶ、あるいは生活していく上で求められる金銭感覚を身につけるに当たって、お金そのものの基礎的な理解を図ることは不可欠といえよう。

教材であるテキストの見開きは、お金の基礎的な理解を図るため、子どもが取りつきやすいイラスト等の資料と、学習内容をできるだけ平易に説明した文章資料から構成されている。文章が学習活動を示唆するものでなく、説明的な文章資料になっているのは、保護者が子どもと一緒に読み



ながら使う場合も想定しているからである。もし、授業で使う際に文章を後で読ませたい時には、イラストのみをコピーして使うことを想定している。

3 教材に基づく授業の展開

取り上げた教材を活用する1時間の授業には、子どもの発達や興味・関心等によって様々な展開が考えられるが、ここでは本教材の構成を生かした典型的な展開例を提示してみることにする。

①お札でケーキが買えるわけを予想する

ケーキを購入している場面のイラストを拡大コピーしたものを黒板に掲示し、なぜお金でケーキが買えるのかを予想させてみる。「5千円札はお金だから買えると思う」といった発言を受けて、「どうして紙のお金でものが買えるのか」「なぜ同じ紙なのにおもちゃのお札では買えないのか」を問い、知っていそうでよく知らないお金について、もっと調べてみようという課題を設定する。

②お米やさんが困っている理由を話し合う

テキストにある魚や服などと、米との交換を迫られているお米やさんのイラストを見ながら、どうして困っているのかを話し合う。まだテキストを開かせたくない場合は、黒板に板書カードなどで同様の状況を再現してもよい。「魚はすぐに腐ってしまうから」「必要のないものとは交換したくないから」などの意見が出されたら、「どうしてお金とならばいつでも交換してくれるのか」を問い、お金の利便性について考えさせる。

そこでは、貨幣のもつ流通手段と価値貯蔵手段、価値尺度という三つの機能のうち、はじめの二つが子どもたちから出されると推察される。あくまで学習状況に応じてであるが、この場面ではそれらに加えてお金が、ある品物が高いあるいは安いといった判断をする際の価値尺度になっていることにも、値札等を補助資料としながら気づかせたい。

また、自分たちが行っている「買う」という行為が「品物と同じ価値のお金を交換する」ことである点を確認しておく。子どもにサービスを買うことの理解は難しいが、洗濯屋さんに出したものがきれい

に仕上げられてくる例などを使うとわかりやすくなる。

③テキストを読み、ノートなどにまとめる

テキストの本文で、お金でものが買えるわけやお金の便利さを調べ、ノートやワークシートにまとめる。記述されたものの評価に当たっては、例えば「お金でものが買えるのは、国が法律で決めて、みんなが信用しているから」「お金は、物々交換と違い、いつでも交換してもらえり、軽く腐らないから便利」といった記述内容が想定されるので、それに基づいて評価基準を設定する。

時間的に余裕がある際には、物々交換して昔の様子などについても話し合ってみると、お金の便利さがより明確になる。

④偽札づくりをめぐって話し合う

③での記述を発表し合った後、テキストの「にせ札を作るのは、お金の信用をなくすことになるので、とっても重い犯罪です」を取り上げて、「どうして偽札づくりが重い犯罪なのか」を問う。ここでは、偽札が人をだますといったことだけでなく、人々のお金に対する信用を失わせ、財やサービスを買って営まれる生活を崩壊させることに気づかせるようにする。この場面では、偽札が購入に使われた時、お店の人がその後どうするかを、簡単なロール・プレイングによって試してみることも有効である。

4 今後への期待

ここで紹介した教材は、今後授業実践を通して随時修正されていくべきものである。その意味でテキスト自体が、よりよいテキスト作成のための試案であるといえよう。また、本教材を含むテキストの各内容項目については、それらをいかに組み合わせる実用的な学習指導計画を作成するかが問われることになる。様々な授業実践から、多様な学習指導計画が生み出されることを期待したい。